

漢書地理志

下四

故小川に記入安房上總下総武藏相模伊豆の六國見也故一名

又明月院北

本間文庫

門と入尤も最明寺旧蹟ありこれと福源山禪興寺とに開東禪院十刹の其一多本願ハ平時頼小々昔ハ七堂伽藍あり今廢寺とある東鑑小建長八年七月十七日宗尊將軍山の内北最明寺に御忝此精舎建立の後始て御禮佛也同年十月廿三日相西時頼最明寺にて落飾法名覺了坊道宗戒師ハ宋の道隆とあり當寺の岡山も道隆かとも無及徳詮と分一の祖とい源氏満建立此時の堂塔并小地圖今明月院より甚廣大多し今ハ佛殿許あり明月院の持分あり寺僧の云上教道合ハ當寺北檀那也明月院ハ道合の菩提所多故小當寺と領を多あり佛殿本尊釋迦佛頸許り惠心作地藏堂ハ蜀の大帝北像一軀韋駄天の像一軀運慶作平時宗同貞時上杉重房像各一軀完祖師堂ハ大覺禪師の像あり牌に岡山建長大覺禪師の座より平時頼北像あり泥塑也蘭溪作とに牌小最明寺崇公禪門覺靈とあり又玉隱和尚乃像なり或人金地院の最嶽叟とに同鎌倉小何

北異夏々ある答て曰寶朝將軍右大臣最明寺崇公禪門覺靈岡山建長大
覺禪師座此三本の牌他小異なり此事寺僧の物語にたり平時頼茶毗所
佛殿の側あり東鑑小弘長三年十一月廿二日戌刻に入道正五位下行相摸守平朝臣時
頼年二十七最明寺の北北亭にて卒去臨終の儀衣袈裟と著し繩床小上座座禪し
聊動搖れ氣毒く頌小云く葉鏡高く懸る三十七年一槌打碎して大道坦然と同
廿二日葬礼をせり時頼奉佛終禪事元亨釋書願雜王臣の下に傳と出せり按ふ
東鑑に相品時頼山内の亭と有は此最明寺乃地多に見へり佛殿の前乃川と玉洞と云
玉洞の橋と維新橋と號鐘樓鐘の銘あれども畧之
又明月院の馬場先東
隣北畑と管領屋鋪と上杉民部大輔憲顯源基氏の執事として此所居宅を其後
上杉家代々此所小居其時鎌倉も京も似て管領と將軍或は公方をも稱し
執事と管領とに故に此所と管領屋敷と云はる後上杉顯定上品平井の城に居り
然と其山内の管領として憲顯北末流と山内乃上杉と云はる又扇谷の上杉と云はる

扇谷の條
下詳す

又山内管領屋敷の東町屋北後小徳泉寺舊蹟と云あり昔此寺上杉朝宗
の建立あり朝宗と徳泉寺法名道元禪助庵主と號せ應永二年八月廿五日卒に岡
山東岳和尚諱ハ文晷大拙の法嗣なり
又管領屋敷の向浄智寺北東隣の谷

と尾藤谷と云里人の云昔尾藤左近將監景經此に居て又圓覺寺額の添狀に延慶
元年十月七日進上尾藤左衛門尉殿越後守貞顯とあり此尾藤欽又佛日菴に小田
原より此文書あり鼻頭谷と書り
又山内小瑞鹿山圓覺禪寺と云鎌倉五山

二の寺あり本尊寶冠釋迦佛脇士梵天帝釈共小御殿を作り佛殿小安に佛殿の額大
光明寶殿と書その後光嚴帝宸筆多る春屋の添狀あり其文に曰く貴寺佛殿
の額字添勅筆降賜に誠し山門千歳の恩沢叢林万方光輝小哉私重く
正月廿二日妙葩とあり祈禱の額に夢窓の筆多る
選佛場と云ハ佛殿の西より
祖師堂ハ達磨百丈臨濟岡山此像あり前住の牌あり土地堂ハ伽藍神又代々
將軍の牌あり外門今をハ妙莊嚴域と云額有と云總門額ハ瑞鹿山と書後光

嚴帝の宸筆あり山門の趾礎石のあり額ハ圓覺興聖禪寺と書花園帝の宸筆あり此所の鐘あり鐘樓もかく四柱と立て小鐘と懸たり銘と見れば長壽寺の鐘多し何れの時か小移し置たる事歎寺僧知るべかり明鏡堂の趾佛殿の東より方丈ハ佛殿北東北より聖觀音と安べ此尊像初ハ明鏡堂に安ぞ堂廢してより小移し毎月十八日大衆懺法あり佛殿の西北に辨天窟あり傍に天滿神と祀る惣門乃左右に白鷺地あり岡山來朝の時八幡宮白鷺と化して導と分り此地よりありて此所小寺と建立は是の故に白鷺池と名くこゝ岡山塔ハ方丈の西北四町許り小あり門は萬年山と額と方正續院とよ平貞時の建立して祥勝院と號し佛牙は舍利殿ありと後小岡山塔より軒小常照の額あり岡山佛光禪師の木像あり肩と膝は鳩と龍とと置あり元亨釋書に祖元宗不在し時禪定の中小嘗て神人と見る告て云願くハ和尚我が國に降ると此事故度あり神人の至るよとに先ツツの金龍来て袖の中に入る思慕鴿子たり或ハ青白化者或ハ飛啄の熊或ハ吊る膝上よりのる其由と測るべ

此國小入に及んで人有て語て曰當境小神有八幡大菩薩と云後ハ八幡宮に至り殿梁の上と見ると數箇は木鴿子あり是と問ふ對する者の曰くこれ神乃使鳥の予則知る定中の幟冠ハ此神多る事と老僧が此に到る偶然ありされし老僧が酒質と造らば膝の上は鴿子及び金龍と安して以て往年の識不應せよとあり又之の掲俣斯塔の銘と作る岡山塔の後小宿龍池とあり岡山來朝北時龍現して船中と護り來て此地に構かり岡山塔の上は方丈坐禪窟とあり岡山禪師座禪し給ふ窟あり方丈の後山小鹿岩とあり當山創立の時鹿出る奇瑞あり故當寺北山號を鹿岩有もよの故なり方丈の北に妙光池異池とあり妙光池の北に虎頭岩とあり洪鐘ハ佛殿北南の方山上より香池とあり高き八尺土人訛て此鐘ハ古龍宮より上よりよ種々れ奇瑞あり鐘銘これぞ畧の銘の末に正安二年辛丑七月初八日大檀那從四位上行相模守平朝臣貞時勸縁同成大器當寺住持傳法宋沙門子曇謹銘とあり什寶

佛牙舍利長一寸二分水晶の塔小納む用山塔正續院小あり傳云將軍實朝公
浮圖と信じて金銀貨財と多く宋の國贈り仏舍利と乞宋人其厚信感
賞してこれと渡り又錄倉志小云日工集正續院舍利記云建仁の用山十光ハ
實朝大臣殿と世々互小師檀香火の縁あり十光大臣殿此命と受て宋小渡り佛
牙舍利と取て來り今北正續院の仏牙是也と有又舍利記一卷正續院小あり其文曰

萬年山正續院佛牙舍利記

日本國相品鎌倉都督右府將軍源實朝一夕夢到大
宋國入一寺嚴麗因見長老陞座說法衆僧圍繞道俗
滿庭實朝向傍僧問彼寺名僧曰京師能仁寺也問長
老誰僧曰當寺用山南山宣律師也又問宣律師入滅
年久何今現在曰汝未知耶聖者難測生先無隔應現
隨處律師今現再誕日本國實朝大將軍是也又問長

老左邊侍者是誰僧曰今現再誕日本國鎌倉雪下供僧
良真僧都是也實朝夢中問答數刻而覺心中生奇異想
便以使者召良真僧都僧都又有夢早晨詣幕府使者於
路上相遇即隨使者忝謁實朝先問曰僧都來何也僧都
仍悉說夢中事實實朝曰與我夢合也其時壽福寺用山十
光和尚又有夢三夢事不差實朝自悟南山之後身深希
拜彼靈跡仍廢世務思之在茲因懷渡宋之志便命工造
船諸官僚聚謀令工作船不動之謀船成以啓實朝昂致
叛禊之祭推欲泛海果是船不動以爲不詳而止矣便遣
十二人之使節於大宋國良真僧都葛山願成爲首大友
豐後守小貳孫太郎小山七郎左衛門守都宮新兵衛菊
地四郎村上次郎三浦修理亮海野小太郎勝間田兵庫

南條次郎等奪金銀貨財載材木器用遂違大宋國京師
能仁寺相通夢中事金銀施佛僧材木修殿宇衆僧不堪
拊躍聚議計報者使者等語寺主曰我國貨財不足况復
將軍不欲也深願佛牙舍利借與一年持還本國使將軍
致膽禮結勝緣將軍歡喜何物遇此寺主云帝王有勅封
難出外國使者等懇切受之曰潛持深藏不使人知將軍
信士也一禮之後速返謝衆僧議授使者寺僧數人爲舍
利伴使者來朝道經京城皇帝有旨留之安內道場保護
供養過半年餘使者等空歸因東言上事來由右府及數
度奉使者終不合叡慮實朝大怒曰天氣不憐我渡宋之
意還柳留舍利遺恨次第也外國有其例起百萬兵奪一
人僧理猶必然况是佛身舍利也豈可比量不如我只一

人上洛遂膽禮藤九郎盛長年座八十白髮滿頭已雖老
蒙聞實朝怒思事可惡杖杖黍謂泣諫實朝止之真忠臣
之義也躬自請使節實朝許之不日裝束已及發行曰今
度逆旅偏爲老翁浮沉不思再生還海道供奉者二千餘
騎遂違京城不入旅邸直詣內裏奏聞實朝之愁訴皇帝
尚不聽盛長跪庭上大怒高聲叫云走上宸殿必致自害
官僚相噪皆各奏聞皇帝不悅作勅封出舍利盛長又奏
老翁於關東悉聞良真僧都願成等語舍利尊容一見即
知舍利尊容而後面賜勅封爲幸又有旨曰然者疑勅封
耶又奏曰勅封雖可恐使節之儀尋常如此不賜一官許
昇殿面封舍利授之盛長觀喜頭繫舍利速出內裏不還
旅館即日直赴關東先以使者報關東實朝大喜預掃道

路布荒薦供奉數萬新飾衣裳實朝徒步跣足行待小田
原館盛長已到捧舍利獻實朝實朝受之涕淚悲泣燒香
禮拜便捧小輿實朝躬自舁肩遠歸鎌倉伶人前後奏舞
樂妓童左右擎旌蓋萬人奉幣帛如雲集十方獻香花如
雨散時又有瑞相紅雲一道出鶴足廟擁舍利輿皆道神
靈來迎南海波上峨冠者數百連現合掌良久沒是又龍
王出現觀者驚歎實朝愈流感淚遂到鎌倉安勝長壽院
特建大慈寺遷之每年十月十五日有舍利會天下逆亂
飢饉疫癘旱魃洪水世々於舍利塔前祈之皆有靈驗天
災頓息異國蒙古文永弘安兩度侵本朝祈禱塔前兩度
有瑞光指西南方其亂即息開東代々都督崇敬此舍利
皆蒙德錄倉諺曰國土安平武運長久皆依舍利崇敬受

靈威之菽原天皇后醍醐天皇兩度有勅命雖被召爲鎌
倉鎮守靈物故終無進獻勅命兩度有勸感止之最勝園
寺時貞曰佛牙舍利自鎮園東壘二百年崇敬因異它我累
祖安穩鎌倉繁昌實不疑之所也後代有怠必喪運祚圓
覺妙場鎌倉戊亥方也鎮此舍利永代爲鎌倉守護之靈
祠也便於圓覺寺特叔舍利殿以遷大慈寺佛牙此也記
出同注所史詞雖拙蕪理事分明故存舊文私不加筆削
勝長壽院乃大御堂也大慈寺乃新御堂也磯建武兵火
云舍利殿舊辨祥勝院也良真房跡今建長寺妙高菴也
元弘三年癸亥七月八日綸旨云可以圓覺寺舍利殿爲
圓山常照國師塔頭之旨天氣也今萬年山正續院也觀
應三壬辰四月十八日征夷將軍入山瞻禮佛牙舍利也

舍利奇瑞一件在公方記錄不載中山和尚記錄曰義時
息女年八歲俄有神託云我自鶴足來垂跡於此境年來
久草創更跡身心不安茲有奇特事佛牙舍利自大宋國
降臨此境三界實何物過此然者垂跡此境永代不有限
非唯我一神日本國中天神地神大神小神礼敬無隙福
錄增長此境衆生盡得壽福汝等諸人不知善鄰國寶記
尔云此記於畧載

按多不東鑑陳和御八宋人東大寺の佛と造るは彼寺の供養は日頼朝對面
らんと仰るれども多く人の命と断給罪業重くして謂し申は建保四年六月八日
鎌倉小来り寶朝將軍ハ權化の再誕多し恩顔と拜せんと爲泰上と寶朝對面有
和御三拜して早く貴容ハ昔宋朝育王山の長老たり我ハ其門弟子と列せし此事去
建曆元年六月二日丑刻小將軍家御寢の際ハ高僧一人来て此赴と告奉り御夢

想此事敢て御詞不出處ハ六ヶ年小及て和御ヲ申は符合を依て寶朝前生ハ住取
育王山と拜せん爲り唐小渡り給人として和御と仰て唐船と造るむ同五年四月十七日
造畢役夫數百人彼船と由比の浦小浮めんと筋力と盡し曳りし此所唐船出入乃
海浦にあらず故浮出ハ事なりハ徒小砂頭小朽損あり此記ハ異なり帝王編
年記の説も東鑑と同じ日工集ハ貞治六年四月十五日府君源氏滿圓覺寺北正
續院小入て佛牙舍利と頂戴を蓋し府君一代小一度開封是北宋國京師能仁寺の
舍利也とあり又神明鏡小建永年中葉上僧正明惠上人追唐使として道宣律師ハ
在世の時感徳有し佛牙ハ御舍利所望の爲小渡り多し唐帝より給て歸朝あり
寶朝大臣ハ道宣の再誕多し儲鎌倉北乾正續院に置奉る葉上ハ建仁寺の本當に
あり此寺小於て禪法と初老終て我朝禪法の初多し明惠ハ梅尾建立なりとあり
或云此明惠ハ人皇八十三代土御門院建永元年十月京都の高山寺と建立し梅尾山
と號せ花嚴宗の本寺也寺領八十五石と云此岡山明惠上人始て茶種と植りし

一 小當山六茶の根元の地ろうより岡山自畫譚像一幅寧一山自筆狀一通臨濟
禪師画像一幅無准賛あり 佛鑑禪師画像一幅興東陵賛あり 伏見帝
宸筆一幅勅謚佛光禪師とあり三行大字也 花園帝并後光嚴帝宸
筆一幅 後小松帝院宣一幅至徳元年七月五日とあり 光嚴帝論旨一幅
これハ夢窓國師の賜論旨なり 五百羅漢畫像五十幅内十七幅ハ北殿主
筆餘ハ唐筆あり 平時宗書一幅自筆云釋書小己卯弘安二年年吾建長虛
席副元師平時宗跋幣と具て海舟航して名宿と聘を明の牧之と以て遐
招小充とあり蓋此時入宋の沙門詮英等小與る書る人 佛光禪師書
一幅自筆 後光嚴帝宸筆一幅額也最勝輪とあり 後小松帝宸筆一幅これハ
額也黃梅院とあり 青蓮院道圓法親王墨蹟一幅至徳元年十二月十日と有 岡山
所の硯一面圓硯斑石也徑一尺許り厚さ一寸五分あり 觀音畫一幅唐画也
跋陀波羅菩薩画像一幅画師宗淵の筆 辨財天石像一軀紫石長七寸蛇形也

相傳圓覺寺の鐘と鑄時江の嶋より來ること 南院國師真趾一幅 普明國師の
真趾一幅 勅會法華御八講役身乃書一卷東明和尚筆也元亨二年十月廿
四日とあり 南山自賛北画像一幅 前平中納言奉書の添狀一幅私云此平中納言未考 西
園寺書二幅一幅ハ伊豆守殿維親とあり一幅ハ名那ノ文章ハ同ノ事あり 平貞
時圓覺寺の壁書二幅一幅ハ永仁二年正月日とあり一幅ハ乾元二年二月十二日と
あり其ノ貞時北花押あり 同自筆の書二通 平高時書一幅文保二年五月廿二日と
あり 源尊氏自筆の法華經一卷卷第八あり 奥書小奉為三品觀公大禪定門終五
種妙行觀應九年九月五日書寫する正貳位源尊氏花押 觀公ハ尊氏の父貞氏
あり貞山道觀と云淨妙寺の條下小見へたり 同直判の狀二通一通ハ建武三年九
月十五日とあり一通ハ文和三年十一月廿日とあり 源義滿北墨蹟四幅一幅ハ宿龍と有
一幅ハ桂昌とあり一幅ハ普現とあり皆大字也朱印ニツ有六道有とあり下天山と有
共小篆文あり按て義滿始ハ道有と跡ハ後ハ道義と改む又一幅ハ圓覺正

續院小常陸の小鶴庄と寄附此狀あり應永三年十二月廿七日入道准三后前大政大臣とありて下ミ花押なり花押數ト載ト同ト已上 抑當山後宇多帝御宇弘安五年臘月八日北條相摸守平時宗の創建して同穴宋國の人佛光禪師諱ハ祖元字ハ子元弘安二年小來朝生元亨釋書ト載ナリ寺ノ産ハ鎌倉風百四十貫文あり昔ハ大慶トして伽藍玲瓏ト子院數々あり山頭の雲霧寂寥トして香火の烟ト勝ト比ト禪ト壘トなり京師天龍相國の二寺鎌倉建長圓覺ト比ト兩ト判ト共ト轉ト住ト乃ト号今小於て絶ト杜ト甫ト文公の廟ト謂ト一ト禪ト龕ト尺ト晏ト如ト乃トと書ト一トハ此ありて此事昭ト佛日庵正續院の東北小あり檀那塔也所謂檀那平時宗の塔と慈氏殿と彌木像あり位牌ト法光寺殿道果大禪定門弘安七年甲申四月四日なり同貞時の塔と無畏殿と彌木像あり位牌ト最勝園寺殿宗演大禪定門應長元年十月廿六日なり同高時の塔と同光殿と彌木像あり位牌ト日輪寺殿宗鑑大禪定門元弘三年五月廿二日なり又潮音院殿覺山志道大師と不牌あり時宗の室松

ケ運の用山多ク 桂昌菴兼先和尚諱ハ道欽嗣法默翁十二月六日寂 佛宗庵南山和尚諱ハ士雲嗣法聖一建武三年十二月七日寂 崇壽寺の用山多ク 白雲菴東明和尚諱ハ惠日嗣法直翁曆應三年十月十四日寂 年六十九 富陽庵東岳和尚諱ハ文昱嗣法大拙應永廿三年二月廿三日寂 壽徳菴月潭和尚諱ハ中圓嗣法義堂應永十四年九月七日寂 正傳庵大達禪師諱ハ正因辨明岩嗣法西洞應安二年四月八日寂 萬富山續燈菴佛滿禪師諱ハ法竹号大喜嗣法太平今川基氏の子也貞治五年九月廿四日寂 年五十二 傳衣山黄梅院正覺心宗普濟玄猷佛統天龍國師諱ハ疎石辨夢窓嗣法佛國觀應二年九月晦日寂 如意庵佛真禪師諱ハ妙謙辨無礙嗣法佛國應安二年七月十三日寂 歸源菴佛惠禪師諱ハ是英号傑翁嗣法之菴永和四年三月十二日寂 天池庵容山和尚諱ハ可元嗣法險崖延文五年四月十八日寂 藏六菴佛源禪師諱ハ正念辨大休嗣法石溪温州人文永六年己巳十月九日來朝正應二年十一月晦日寂 壽七十五

右十二院今存也

又圓覺寺の南向川と隔て東慶寺とあり此れと

松園と辨に禪宗比丘尼位職を関基に北條平時宗の室秋田城女義景
女少て貞時れ母して湖音院覺山志道尼和尙と號し時宗弘安七年四

月四日卒去し以明幸落飾して當寺と創し十月九日同山忌あり第二世龍

海雲第三世清澤第四世須宗第五世用堂後醍醐天皇の姫宮山小入る

菴漆受具し給ふ應永三年丙子八月寂し第六世仁芳義第七世簡宗揮分

八世松圭秋第九世應洞化第十世甘聰蒙第十一世柏室樹第十二世靈

庵警第十三世即翁心第十四世聞璋見第十五世明玄遠第十六世渭繼瑣第

十七世旭山賜生實又作北御所八正院源義明の息女也弘治三年七月十日寂し第十八世

瑞山祥第十九世瓊山清尼喜連川源頼純の息女第二十世天秀泰和尚豊臣秀頼

公の息女也元和元年小東照大神君れ命によて山子入菴漆有時小八歳正保二年乙酉

二月七日小入寂し給ふ佛殿の後石塔婆あり第廿一世永山和尚喜連川源尊信の息

女なり寺領百二十貫文本尊釋迦佛并文殊普賢共小金銅の像佛殿に安ん山門額

ハ東慶總持禪寺と書ハ鐘樓ハ山門の外右小あり此寺れ鐘ハ小田原陣の時失て今有

鐘ハ松ヶ園の領地よて農民堀出したと銘と見ふに補陀洛寺れ鐘多故小神陀洛

寺の條も記を脇寮蔭涼軒ハ方丈の北なり海珠庵ハ山門と入右あり永福軒ハ山

門と入左なり青松院ハ佛殿の東北小あり妙喜菴ハ青松院の北なり又圓覺

寺の前と西行ハ藥師堂あり其前れ橋と十五堂橋とよ古此所小十五堂有し故る後

今ハかゝれ鐘倉十橋の其一なり此所の村と山の内村とよ又山内より西行ハ市

場村あり此村の出口小道二條あり北ハ戸塚道西ハ玉繩道あり又戸塚道の東小芝

山あり是と離山とよ里老の云握原平三景時ハ古城とよ握原ハ旧宅ハ五大堂北なり

此離山より鶴田ノ鳥居まで三十二町とよ又離山の東北と粟船郷或ハ作トノ

粟船村小粟船山常樂寺とよあり當寺初ハ天台宗より水尊阿弥陀三尊と安ん北

條恭時草創り蘭溪入院後禪宗とせりよて蘭溪と同山とよ當寺畧傳記小古老

相傳^ト以粟船^ノ號^シ村^ヲ依^リ山^ヲ得^テ名^ヲ此^ノ地^ニ性^ト時^ニ爲^リ海濱^ニ以^テ載^シ粟船^ヲ繫^シ于^テ此^ノ一^ノ夕^ニ變^シ化^ス山^ト今
の粟船山是也其形如船又海濱化爲桑田人家于此故曰粟船村山の南於曰垢拂村
昔掃船中垢所也又山の北有小山形圓轉乃里民呼曰栢杓山汲垢水器化山其餘依
名不具記此地四伺の下齋具朽蘆古抹青泥等今尚存之鑿井知焉之乃北条武藏
守平泰時と常樂寺と號を法名觀阿と云位牌と過去觀阿禪門とあり東鑑小仁治四
年六月十五日故前武品泰時周圍の御事と山内粟船の御堂と於て終せり又建仁六年
六月十五日前武品泰時十二年已忘れ為め彼墳墓青船の御塔と供養せり導師は大
阿闍梨道禪とあり按てふ小元亨釋書と副元師平時頼隆蘭溪が來化と
聞延て常樂寺小居にあり寺寶定規二篇共小板と刻して一一篇ハ蘭溪
一篇ハ梵僊已上鐘樓鐘の銘なり畧ハ文殊堂額ハ秋虹殿とあり文殊毘沙門不
動と安ハ文殊ハ頭むり蘭溪宋より持來り體ハ本朝して蘭溪作り継はる
泰時墓境内山の上あり姫宮同所なり泰時の女乃墓と云色天無熱池と

りりり此ハ境内良の隅なり又常樂寺の上姫宮乃西小本曾塚とあり
此塚元ハ常樂寺の未申北方十町許り田の中有て里民本曾免と云傳云本曾
義仲ハ嫡子清水冠者義高が塚なり此義高ハ頼朝の誓て成て鎌倉小在り父
義仲江品粟津原にて討とて聞て後密に遁せ出る武品入河原にて追手の
塚藤次親家が郎黨藤内光澄と討つ彼首と光澄持歸る實檢の後ハ其墓
ゆり東鑑小元曆元年四月廿六日とあり延寶庚申二月廿日小田の主石井某
と云者塚と掘出して今之所小移生塚北内小青磁の瓶あり内小枯骨泥小亦
て有りと洗ひ清えて塚と建しとあり又山内の西小洲崎村と云あり太平
記ハ義貞鎌倉合戦の時赤橋相摸守守時と大将として洲崎北敵小向らる者
ハ此所より赤橋腹と切れむ十八日の晩程に洲崎一番小破れて義貞の官軍ハ
山内まで入り入りこあり山内ハ東北方より皆此道筋なり鎌倉年中行事に
藤澤炎上の時公方様成洲崎まで御出夫より御使と遣さるとあり此村の東

と寺分村と以南と町屋村と小町屋村ハ金沢とも同名あり 又山内より

西の方小玉繩村とあり關東兵乱記録倉九代記北條盛衰記等小玉繩の城と有れば此所より今松平備前守源隆綱居宅と云はる此所より鶴屋一北

鳥居まで行程凡四十八町許と云ふ又東海道筋戸塚と藤澤の間影取の並木小玉繩道と云ふ此所より追分あり 又今泉村の内小不動堂あり今泉山と

額有不動尊ハ石像多し弘法の作と云堂北向に瀧より高さ一丈許りして南北に相向て落る南と男瀧北と女瀧と云 又岩瀬村の内小龜鏡山大長寺と云

あり淨土宗和恩院末岡山増上寺觀智國師也寺領五十石 御朱印多 又本郷上村小五峯山證菩提寺舊趾と云あり今無量寺と云真言宗あり此邊も山内庄也

東鑑小建保四年八月十四日相品 時頼 奉て山内證菩提寺を修理あり是右大將家の御時佐と修を又建長二年四月十六日山内證菩提寺修理あり是右大將家の御時佐

奈田與一が菩提の為小建久八年に建立とあり本尊阿彌陀佛を安んずる寺宝頼

朝の證文一通古證文二通 已上 鐘樓鐘の銘はれりも畧し 又山内の方より扇谷

北方行阪と龜谷坂と云北ハ山内南ハ扇谷多し壽福寺と龜谷山と號して龜谷の中央あり此所ハ龜谷行阪の名多し 又山内の方より龜谷段一登も右の方小寶

龜山長壽寺と云あり關東諸山第一あり源基氏父尊氏の為小建立し尊氏と長壽寺殿妙義仁山大居士と號 尊氏京師にてハ等持寺と云鎌倉にてハ長壽寺と云也 延文三年戊戌四月廿九日小栗

ハ當寺に牌有岡山古先和尚あり昔ハ七堂有りと云今滅びたり諱ハ圓覺寺にあり容殿本尊釋迦佛と安んず文殊普賢岡山中峯木像尊氏公の像東帶むじハ

伽藍惣々たり佛殿と惟久殿と號して後容殿小安んずと獅王殿と云尊氏廟容殿北後山陰にあり尊氏屋敷當寺の南と云大倉 美 巽荒神の東にも尊氏

屋敷と云あり二所共小尊氏の舊宅多し一岡山塔趾容殿より南山上にあり其地と寶塔と云明の宋景濂古先曇芳庵と號し額ハ心下有りと云今塔を其地と寶塔と云明の宋景濂古先

和尚の碑北銘と作し護法録小載と云に畧し寺寶尊氏の狀一通義詮の狀一通

氏滿の狀一通持氏の狀一通已上

又龜谷阪と登りて扇谷坂と下れりたり勝縁

寺が谷とあり昔寺有と今此谷小天神の小祠あり又龜谷坂と越て南の方
と扇谷と云龜谷内あり

又扇谷阪と下りてたゞ飯盛山とあり此山の根小

岩と扇の地紙片形小堀り中より清水湧出是と扇の井と名く鎌倉十井此其
一ツあり鎌倉年中行事小源成氏六月一日飯盛山に富士参詣の事有此飯盛
山に富士権現那り年中行事云ハ公方屋敷の南に飯盛山あり

又飯盛山

の前は畑と大友某と云中岩月和尚自歴譜小大友吏部乃祖の墳藤谷小請て
住せしむとられバ此飯盛山藤谷の内多れハ藤谷昔大友某其菩提所有て中岩
住持りなるあり此所ハ大友の舊宅と見へり藤谷の西より東鑑小扇谷ハ見へ

又大友某の東北方と藤谷と云藤原為相鎌倉下り時暫く栖すまり也故藤
谷と云とあり藤谷百首にて為相の歌あり今公家藤谷此稱号は是ハ
此為相より始むと云り初めハ藤谷と稱後勅定小藤谷とハハと長藤

谷と稱へり

又藤谷の東南北山嶺小藤原為相石塔あり此為相

ハ為家遺趾の爭論して母阿佛と鎌倉一詠小下り二人共小鎌倉にて終る事ハ
十六夜の記不見なり此東の峯を越て多寶寺谷と云所あり然れども寺は大方
不五輪なり文字ハ分明あり土人ハ此と忍性の塔と云ハ非あり爰ハ泉谷内あり

又泉谷の内小泉谷山淨光明寺と云あり建長二年辛亥年平長時建立あり長時の法
名專阿と云用山真聖國師諱ハ真阿寺領四貫八百文東鑑小文永二年五月三日故武
品禪門長忌景の佛事泉谷の新造れ堂にて修せり此寺今真言天台禪律

乃四宗兼學にて泉涌寺末也空華集小淨光明寺の三世智庵律師華嚴天台二
論法相四宗の院と創建ハ兼て顯密と學ん最も華嚴淨土の二宗不明り此寺
異云宗旨八宗兼學の寺とあり阿弥陀堂堂塔頽破して今此堂許あり本尊阿

弥陀の三尊是と上品上生の阿弥陀と云里諺寶冠此弥陀と云用山平長時の木像
あり寺寶後醍醐帝の論旨二通一通ハ元弘三年十月五日一通ハ元弘三年十二月廿日有

後小松帝の官符宣二通共小嘉慶三年二月あり其一通北畠小云當寺公平長時
の本願建長重光淵猷之經始真阿和尚權輿とあり 同日宣案一通應永世年
九月廿四日小淨光明寺岡山真阿不勒して真聖國師と賜とあり 源尊氏證文二
通共一觀應三年とあり 源直義證文三通觀應二年とあり 源基氏證文二通
貞治三年と有 源義滿證文一通應安七年とあり 源滿兼證文一通 源持氏證
文二通應永世七年とあり 源氏滿證文一通亨德二年と有 上杉顯定證文一通
顯定の判有花押數小も載り 淨光明寺地圖一枚 愛洙像一軀願行作千手
觀音立像一軀 二十五條袈裟一頂願行上人の受持あり 三千佛畫一幅弘法筆 不
動像一軀座像也是と八段不動と傳云淨藏貴所八坂の塔北傾きたると祈り直
せし時の本尊あり文覺上人鎌倉小負來ると後小此寺に安置の按告小淨藏貴
所塔と祈り天曆年中の事あり元亨教書小見たり 八幡兼弘法画像各一幅
此兩像と互の御影と號八幡北影弘法の筆弘法の影八幡北筆とて互小

形と寫れしと堪裏抄小神護寺に八幡の御影あり是は大師昔東大寺の大門にて
對面有て相互小御影と寫し給り神筆北影像ハ納冷房より御筆の神影ハ初
より高雄寺に安置せられしと近衛帝御宇小東大寺北鎮守小祝ひまゝとて南
都より頻小申受又八幡より去り保延六年正月廿二日の炎上ハ醍醐天皇の勅定小
依て敷實親王造作し給ひ僧俗二體の外殿乃御神體燒失せし故に社家
より強望申されを鳥羽上皇聞召て不思議北重宝也とて鳥羽の勝光明院北宝殿に
納られしと後鳥羽帝の御宇建久八年文覺上人修造北時又申受て返り納めしと
とあり其大菩薩の御影ハ僧形より赤蓮華小座より日輪と載て納れ袈裟と
掛て錫杖と持給ふと云又八幡愚童訓にも見たりとありと文覺鎌倉へ持來りて
此寺に納めたりと八幡弘法年代懸隔せり然し或ハ夢に示現し或ハ幻に影と
見て皆神秘佛力ありと云浮屠氏の例あり 已上 又本堂の西小慈恩院と云あり
此ハ地藏の立像と安べられしと矢拾地藏と傳云源直義守り本尊して直義軍

戦の時矢種射盡し々々僧一人走り来て發つ矢をも拾ひ直義小捧を怪く思ひ
守り此地藏と見れば矢一筋錫杖持添るとなり今も錫杖ハヤハ幹り又直義の
位牌表小當院の本願贈正二位大林寺殿古山源公大禪定門神儀裏小觀應元年
二月廿六日とあり又大塔宮の牌も有り此牌ハ理智智光寺小有べきもの也とて院主是と
送り遣し今彼寺あり又本堂の東小萃藏院とあり願行作の不動と安バ右北
二院共小智菴和尚の同基あり智庵ハ真聖國師の法嗣なり又本堂の西小玉泉院と
あり當院小直義の證文あり康永三年八月八日とあり 又淨光明寺北小東林寺

の蹟とあり昔律宗の寺とて淨光明寺と共盛ん多し同山真聖國師尊氏の證文一
通觀應三年とあり此ハ今淨光明寺北宝物とあり此地今ハ武士ヤ第とあり 又淨光

明寺の山中小細引地藏ウツヒとあり阿弥陀堂の後北山上巖窟乃内小安バ昔由北北濱
より漁父の網ウツヒかみてよすたウツヒ故小名くウツヒ石像多しその背ウツヒ窪き所あり潮
汐候ウツヒ從て増減生とよ或人の云藤原の為相建立あり背小文字あり供養の道師性

仙長老正和元子年十月日施主真覺とあり性仙ハ淨光明寺前乎又圓覺寺鐘
の銘小寺乃頭首の中ウツヒ性仙と云名見ウツヒ此人歿時代も相應なり 又細引

地藏の山北西の麓巖窟乃内小相馬天王祠あり相馬次郎師常ウツヒ祠也とよ本師常
ハ屋敷ウツヒハ美荒神の邊小ありて靈と天王小祭ウツヒて叢祠と建置ウツヒと後小此所ウツヒ移
らウツヒり東鑑ウツヒと元久二年十月十五日相馬次郎師常卒歳六十七瑞座合掌決
定往生ウツヒハ是念佛の行者あり誥縁ウツヒとて細素集り拜ウツヒてあり 又龜谷

泉谷の以下次小出ウツヒ 又扇ウツヒ谷阪ウツヒと下り西北海藏寺ウツヒ行路の右小梅立寺
とあり江戸大乗寺の末寛永年中小不受不絶ウツヒ僧建立ウツヒ其後の住持
國法と恐れウツヒて新義の悲田ウツヒと號ウツヒし寺と藥王寺と改む昔此地小夜光寺とよ
寺有ウツヒりとあり又山上ウツヒ贄田ウツヒの祠あり寛文年中小金像の神體と掘出ウツヒ
たり今ウツヒ小あり 又海藏寺の外ウツヒ門前北東小清涼寺ウツヒ谷とあり清涼寺ハ
忍性の同基あり今ハ絶ウツヒとあり元亨釋書忍性の傳ウツヒ小弘長北初相陽ウツヒ入

清涼寺止る平副師時頼道譽と卿光泉寺と創て居こゝめむとあり清涼寺は是也光泉寺今旧蹟不分明清涼寺ハ泉涌寺の末寺帳にも見へたり又海藏寺總門の外右れ方小底脱井そこわけとあり傳云昔上杉家の尼奉禪して此井れ水と汲時投機うつけに和哥石

録録の女がいくとく桶乃底ぬけて水たゞねハ月も至るとい

梅ヶ谷小城陸奥守平泰盛が女金澤越後守平顯時が室とある後小比丘尼とけり無著と號し法名如大とい佛光禪師小泰と悟徹と投機の和歌者ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい

ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい
ちよのくといたく桶北底ぬけて水たゞねハ月も至るとい

とつて建長寺領の内一貫二百文附以用山源翁和尚大覺禪師の法嗣あり扇ヶ谷小ぢり此邊まで扇ヶ谷れ内あり又此邊と會下ヶ谷とも云あり佛殿本堂薬師佛ありと啼薬師とい傳云昔此山の土中毎夜兒の泣聲く名源翁怪しく思ひ或夜其取小至り見ると小墓有て啼聲あり袈裟と脱て墓小覆ハ啼音止夜明て此墓掘れを薬師の頸と掘いん少も朽れ鮮あざあり則薬師乃像と刻其腹中不收允安置れ故に里俗啼薬師とい惣門昔ハ此所小山門有
一とあり鐘樓趾當寺の鐘ハ今西来庵小有其銘ハ大檀那常繼とあり常繼ハ上秋彈正少弼氏定が法名あり氏定ハ禪秀乱の時藤澤道場にて應永二十三年十月八日自害ハ普恩院常繼仙嚴と號し當寺北極那ありとい用山塔蹟佛超菴と号し今亡たり方丈の後北山上に趾あり辨財天祠方丈の西北方岩窟あり兩寶殿と號し寺寶五部の大乘經二十函二十五條の袈裟一頂用山北袈裟あり裏小書付あり佛紹禪菴空外史と七字と朱にて書下ハ花押有

墨子て書空外八洞山の跡也武州多摩郡天士淨底居士檀那多至徳乙丑二月念五日とあり廿三字と朱子て書下子書之とあり此二字ハ墨書多あり按此處小此製沙長洞山の製沙表て書外ハ後書と見たり洞山の傳子弘安三年小寂生とあり至徳ハ後形り洞山自賛の畫像一幅賛の文字減して眞の字識此字などかたふ不見ゆも多し像ハ鮮なり洞山源翁禪師乃傳一卷已上 又海藏寺の山中窟北内ハ十六井とあり土人云弘法の加持水也也 又海藏寺の西南小寂外庵蹟とあり寂外ハ海藏寺北第二世にて源翁の法嗣なり木像海藏寺あり此邊と寂外ガ谷と又蛇居谷と頼朝此所と切通さんて半堀を小蛇のすむ石有て血流る故止る名とありよて蛇居谷とよこし其跡今もこよ 又蛇居谷の西南小道智塚とあり或ハ阿古那の尼住塚とよ共いよと考べ

假粧坂葛原園梶原村又梅谷扇ヶ谷智岸寺谷御前谷法泉寺谷泉ヶ谷
壽福寺石切山望夫石今小路勝ヶ橋巽荒神人丸姫塚興福寺無量寺谷
裁許橋佐々目谷甘繩明神長者塔と又佐々谷隱の里錢洗水送と記

借又扇ヶ谷より西行坂路と假粧坂或ハ作氣生
又ハ作敷勢とよ往還道なり昔平家の大将の首
と假粧して實檢したる地なり故に名くと云傳子又古遊女の住居せし所也故に名く
ともよ曾我物語小假粧坂の麓小曾我五郎時宗が通し遊女らり梶原源太景季
も歌と詠て送り遊女もいにありたり大磯の東北化粧坂ハあやう東鑑ハ假
粧坂見ハ太平記ハ新田義貞五十七千餘騎假粧坂より寄るとり又鎌倉大草
子に禪秀乱の時持氏方より氣生坂ハ三浦相模れ人々と指向るとあり此時持氏依々
谷小居れたり 又扇ヶ谷假粧坂登る道端尤も有大岩窟と景清穿窟と
上傳云悪七兵衛景清と捕てよに籠置しとて今見ふ小窟中深くて穿とよと

物にあは古^{たご}の^い頼^{たの}磨^いして後世^{あき}准^す作^なる^るの^の後^の傍^の小^の向^の陽^の庵^のとあり^しは景清^のの
女の用基^のにて景清^の守^の本^の尊^の十^の面^の觀^の音^のと安^の人^のの云^の景清^のハ錦倉^の下^のら^の下^のら^のさ
この支度^の小^の作^のり^のなる^のあり^しと^の長^の門^の本^の平^の家^の物^の語^の建^の久^の六^の年^の三^の月^の十^の二^の日^の大^の佛^の供^の養^のり^し
干時頼朝^の在^の京^の上^の總^のの惡^の七^の兵^の衛^の景^の清^の錦^の倉^の殿^の降^の人^の小^の泰^のり^しを^の和^の田^の左^の衛^の門^の尉^の義^の盛^のと^の預^のり^し
昔^の平^の家^の小^の候^のせ^しや^のに^の少^のも^の口^のに^の義^の盛^のと^の取^の置^のけ^しと^の置^のけ^しと^のせ^して^の孟^の先^の小^の取^の或^のハ^の縁^の
際^の馬^の引^の寄^の乘^のる^しと^のれ^しと^のて^のあ^りし^人小^の預^のけ^し給^へと^の申^のれ^ば八^の田^の右^の衛^の門^の尉^の和^の家^の
に^の預^のれ^後より^の大^の佛^の供^の養^のの^の日^のと^の數^のて^の同^の七^の年^の三^の月^の七^の日^のて^の右^の多^の湯^の水^の止^のり^し
終^のに^の死^のに^のと^のあり^し又^の東^の鑑^の小^の頼^の朝^の御^の建^の久^の六^の年^の二^の月^の十^の四^の日^の御^の上^の洛^の有^りて^の同^の年^の七^の月^の八^の日^の
鎌倉^の小^の着^の御^のと^のり^し時^の義^の盛^の和^の家^のも^の供^の奉^のり^し然^のれ^を景^の清^のが^の死^の去^の建^の久^の七^の年^のと^のあり^し
鎌倉^のにて^の死^のなる^事明^のら^り其^の之^の景^の清^のが^の女^のと^の龜^の谷^のの^の長^のと^の預^のり^しと^の云^の傳^のり^しの^の塚^の
今^の其^の荒^の神^のの^の後^の小^のり^し彼^の是^の考^のる^小此^の籠^のにて^の死^のら^りし^歟 又^の景^の清^のが^の籠^のの^の北^の北^の方^のと^の
播磨^の屋^の鋪^のと^の今^の畑^のと^の成^のる^此播^の磨^の守^のれ^しと^の源^の基^の氏^のの^の執^の吏^の小^の高^の播^の磨^の守^の師^の冬

と云者甚權威有人の舊宅歟 又假粧坂と登り坂上小松二本有所と六本
松と古ハハ所^の松^の六^の本^のら^りつる^故小^の不^の歟^土人^の云^の駿^の河^の次^の郎^の清^の重^の此^の所^の不^の登^りて^の
鎌倉^の中^のと^の見^の下^りなる^と云^の傳^のり^し上^の枚^の禪^の秀^の記^の源^の滿^の隆^のの^の兵^の共^の十^の万^の騎^の小^の六^の本^の
松^の小^の押^の寄^のも^の上^の枚^の彈^の正^の少^の彌^の氏^の定^の扇^のが^の谷^のより^の出^の向^てし^と先^の途^を防^の戦^ひ
き^らり^とあり^し 又^の假^の粧^の坂^を越^て北^のの^の野^の上^の葛^の原^が園^とし^昔相^の摸^入道^右
少^の辨^の藤^の原^の俊^の基^を害^せし^地多^り太^の平^の記^の俊^の基^ハ殊^更謀^の叛^のの^の張^の本^をる^れハ
近日^の鎌倉^の中^のて^の斬^の奉^るべ^しと^の定^の多^くさ^て俊^の基^ハ小^の張^の與^を乘^せら^れて^の假^の粧^の坂^を
一^の歩^のつ^らひ^て工^の藤^の次^の郎^左衛^の門^に受^取て^の葛^の原^が園^小大^の幕^引て^の敷^の皮^の上^に座^し
給^り俊^の基^がみ^紙と^取出^し辞^の世^のの^の頌^を書^給り^古来^一句^の無^死無^生萬^里雲
盡^長江^水清^と筆^と差^置け^を首^と討^とあり^し神^明鏡^小元^德之^年俊^の基^又關^東
一^の召^下され^葛原^をて^の五^月廿^日に^誅せ^られ^る小^かく^て秋^とも^さで^の葛^をり^し小^の消^る身^の
流^のの^の恨^やせ^し殘^る屍^とり^し鎌倉^九代^記小^の管^領持^氏執^事上^杉憲^實が^の家

老長尾尾張守入道芳傳芳傳小葛原を圍ふて行逢終芳傳を為小生捕と云れを
此所あり又芳傳に後基の墓あり 又假粧坂の下北北谷を梅ヶ谷と云ふ

この邊と綴喜の里と云ふ

史は集三假粧の系と梅ヶ谷の所と云

雅々里小つぎの系北々梅ヶ谷と云ふ

家 隆

又梅ヶ谷の南小武田屋敷と云ふあり今細とあるは武田信光が舊宅歟
又葛原を圍ふ西の方十四五町行て梶原村と云ふあり里老の云梶原平三景時
が舊地と云ふ此所鎌倉權五郎景政が祠あり長谷小右御霊宮の本所
アと云録倉系圖と考ふる小景政景時同姓一族也景政昔此邊に居住し
たる故其宮と云ふに建たるありん景時も此所に住したる故梶原と氏と云ふ歟
景政ハ錦倉と氏とハ景時が舊宅ハ五大堂の北をるれ山と云ふ其小景時が
舊蹟あり 諸又扇ヶ谷ハ龜ヶ谷阪と越て南の方西北ハ海藏寺東南ハ
華光院上杉定政の舊宅英勝寺北地と云ふ龜ヶ谷の内あり今土人扇ヶ谷と

云ふり小時ハ藤ヶ谷の前英勝寺北裏門前と云太平記ハ天狗堂と扇ヶ谷
軍有とあり 又扇ヶ谷小東光山英勝寺と云ふあり龜ヶ谷壽福寺の北隣あり此地ハ
原太田道灌旧蹟也太田氏英勝院禪尼自菩提の為小念佛道場と創營ハ其後水戸
中納言源頼房御の御息女と養て菴深ありて往職し給ふ此邊の大慶寺と諸堂の壯
嚴玲瓏なり 寺領三浦池子村にて四百二十石とあり本尊阿弥陀佛運慶作佛殿に安
置ハ左右ハ善導法然の像あり額ハ寶珠殿と書良恕法親王の筆也總門額東光と書
裏書寛永二十年四月十日無障金剛二品親王良恕書之とあり 山門額英勝寺と書以後
水尾帝の宸翰あり裏書小寛永廿一甲申年十一月日臨寫之とあり 鐘樓門と入右の方ハ有
鐘の銘あり林道春撫を畧之方丈佛殿より西あり地形一段高し石盤方丈の前より
沢菴宗彭銘と作る其文畧之 寺寶阿弥陀經一部伏見帝宸筆 天神名號一幅後陽成
帝宸筆 天神畫像一幅小野於通が画賛賛ハ假名文字あり 西界曼荼羅一幅弘法筆
阿弥陀畫像一幅惠心筆 三尊阿弥陀畫像一幅同筆 金泥曼荼羅一幅同筆 二十

五菩薩画像一幅同筆 祇園淨土經一部當麻中将姫の筆 繡の梵字の三尊一幅
當麻中将姫造源空自画像一幅 同證文の裏書一幅 本願寺身七世真誓筆
西明寺圓測の仁王經疏一部 大字北繪名號一幅 或人云弘法筆 法華經一部 軸
菅原相筆經の長八寸二分半 後湯成帝北宸筆の漆状あり 阿弥陀名號一幅 増
上寺觀智國師筆 短冊一枚 同筆 阿弥陀小佛像一軀 厨子入毘須羯摩手作と云
傳小舍利塔一基 英勝寺の記一軸 羅山林道春撰 已上 英勝院太夫人墓並詞堂
佛殿の西小あり 墓北後の岩小三尊と彫刺 石牌の表小 英勝院長誓清春と有裏小
墓誌有弘文院林恕撰 其文如左

太夫人源姓太田氏諱勝父曰康資母藤氏遠山丹波
守直景女也太夫人笄歲始事東照大神君侍栞席被
息寵誕一女早夭神君怒其無賴命水戸候頼房爲其
准母神君薨後薙髮爲尼號英勝院時々拜謁台徳公

速大猷公治世春遇特加常侍當中談舊事寬永十一年
六月賜鎌倉扇谷數百子地建淨刹號英勝寺奉命親
頼房女爲比丘尼號玉峯清因住持此寺乃是太夫人
高祖左衛門大夫道灌之舊蹟謂所源氏山也十五年
十一月賜三浦池子村地爲寺田十八年秋太夫人寢
病十一月四日大猷公親臨問之時嗣君尚幼然御駕
來視恩光之隆爲世羨談明年八月廿三日遂屬續時
年六十五大猷公哀惜賻儀鄭重其後依頼房請而大
猷公執奏賜宸筆額扁寺且賜常紫衣宣旨可謂身後
之榮施之不朽者也考孫源光國立

又英勝寺の境内北北阿佛印塔とあり昔此所阿佛尼と云印塔有故小
里俗阿佛印塔屋敷と云又極樂寺の境内小目影谷と云所あり阿佛が住

々多地あり又阿佛が墓京師大通寺小なり

又英勝寺境内西の高山と

源氏山と云此山龜ヶ谷の中英也詞林採葉抄小龜谷の山と鎌倉北中央
第一の勝地也とあれむ此山あり此東南の麓ハ龜谷山壽福寺ありその山と
旗立山或ハ御旗山とも鎌倉九代記ニ源氏山と申ハ古ハ幡太郎義家
東國征伐の為ト下ニ給ヒ鎌倉ノ入テ此山小旗と立終ニ強賊安倍貞任
宗任と云給ハ或ハ旗立山とも云くこあり今に旗竿の趾あり又採葉抄
此山と武庫山とあり古老云武庫山と云ハ此山の古き名ありと云義堂
武庫山ハ詩あり詩中小瘡うづみ甲兵の語大臣山の故事ニ似たれども異
あり 又源氏山の西北ノ山王堂ヶ谷ともあり東鑑小寛元三年二月十
九日大納言家頼日光の別當大懸ヶ谷北坊より龜ヶ谷の山王乃室前ニ御
参こり昔ハ山王堂ありとも云り其趾今畑あり又名越も山王堂と云
あり 又英勝寺境内阿佛印塔屋敷の西北北谷と智岸寺ヶ谷とも

古ハ寺あり今額敗せり近以まで地藏堂なり是も今ハあり此地藏尊
今鶴園の供僧正覚院あり此地蔵と云も地藏とも傳云初め堂守
此僧あり貧窮にして佛餉小供すべき物な故此地とのがれて他所小
移て居住せと思ひ定む其夜此夢に地藏枕本小現てどもくこ許り
よて失こり彼僧の意と悟てどもとはづくと同じ若の世界也
こノ事成べしとて居移るハ一生と終りたるとあり 又智岸寺ヶ谷

の西小御前ヶ谷ともあり此並ニ屋敷とも云り或人の云御前ヶ谷尼屋
敷共ニ尼御前の屋鋪と一所成る土俗謬あやまちてふ云りニ御前と云ハ
二位尼平政子也とも私云政子ハ大御所とて始め頼朝屋敷小居住後勝
長壽院の奥小伽藍并御亭と立南の新御堂御所と跡をその地ニ居住
の事未考按云小東鑑小建長三年十月十二日禪定二位家龜ヶ谷の新造
此御亭に御移徙とあり此禪定二位家ハ頼嗣將軍の母二棟の御方なり

龜ヶ谷小居住せり此二位と政子と訛歟又或ハ云鶴岡の古き文書
小亀ヶ谷北禪尼と書り是ハ上野國淵名與一實秀或ハ天野和泉が女
前司政景之云にて北條實泰が室越後守實時が母あり實泰此所小居住故に龜谷
殿と號す實泰が室後小尼と成慈香と號し龜ヶ谷の禪尼と云又天野
屋敷共ハ天野藤内遠景ノ所小居住故小名くこよつと是と
云ふ
又御前が谷の東向北谷と法泉寺が谷と云今皆田畑と成昔
此地小竹園山法泉寺と云寺あり園東十刹之内あり岡山本覺禪師諱公素
安了堂と號し建長寺寶珠庵の鼻祖あり今ハ寺なしされども五山西
堂の公帖ハ法泉寺住持職此事ニ載あり此寺の鐘今光明寺に清拙の
銘あり
又英勝寺の東北北谷と泉ヶ谷と云東鑑小建長四年五月廿六日右兵衛
督教定朝臣が泉ヶ谷北亭と壞て御方違の本所と云はり是宗尊將軍の時
あり御亭北趾今和まんと云
又泉ヶ谷路端小泉井と云あり清水涌出る也

これ鎌倉十井の其一ツあり
又扇谷英勝寺の南ハ龜谷山金剛壽福禪寺と云
あり鎌倉五山北第一あり岡山十光國師宗西也本朝禪宗の鼻祖とて備中の人
あり初め叡山小登有辨上人ハ弟子と成て後宋ニ渡り万年寺の虛菴禪師と謂
法と受傳歸朝北後宗法を弘むハ此地ハ龜谷多し故ハ山號と云源氏山を元龜谷
山と云龜谷の中央にて當寺の西北あり扇谷梅谷泉谷と云龜谷之内あり原此地
ハ源頼義同義家東國征伐北時源氏山小登源氏山乃條
下ニ詳ナリに居住し給ふ古趾之後
義朝此所小居を多し東鑑小治承四年十月七日頼朝御故左典厩職の龜谷北御
舊趾と監臨したる則當所と點して御亭を立ちしは沙汰有と云ふ地
欣廣ハ非ハ又園寄平四郎義實彼没後と吊ひ奉人が為し一ツの梵宇と建依て
其儀止る同五年三月朔日頼朝御母儀の御忌日を以て土屋次郎義清義實ハ
二北子也が龜谷の堂小於て佛事と修せり又正治二年閏二月十二日尼御臺所の御
願こし伽藍を建立せんが為し土屋次郎義清が龜谷北地と點し出さる是下野

國司議の御旧蹟多し其思代報せが為小園崎義實兼て草堂と立同十三日龜谷の地と葉上坊の律師栄西に寄附せしる清浄結界此地多し其の由仰下さる結衆等其地小行道に施主覽臨し其義清假屋と構一珍膳を設く建仁二年二月廿九日故大僕御義朝の沼濱北御舊宅に壞渡り栄西律師の龜谷寺に寄附せしる此事當寺建立の最初其沙汰有と云ふも僅し彼御記念の為幕下將軍殊に修復せし其破壊暫顛倒の儀有重きとされし定めしるの處に僕御尼御臺所に夢中小入て示されし云く我常に沼濱の亭小在て海邊に渾と極むれと壞て寺中小建立せしめ六樂を得んと欲はと御夢覺て後善信として記さしめ栄西に遺さゆとあり元文元年五月十六日尼御臺所金剛壽福寺小於て御佛事修せしる祖父母の御追善とあり寺領八貫五百文外門昔ハ天下古刹と書し額有し今ハ亡たりこふ佛殿本尊釋迦佛と安ん并文殊普賢等と安ん

釋迦ハ唐の陣和卿（和卿）作小して籠小編て張たる物なり世にこれと籠釈迦と云祖師堂小達摩臨濟百丈圓山の像あり土地堂小伽藍神并前住の牌將軍家此牌もあり圓山塔と逍遙庵と號し今蒼ハかり塔ハ積翠庵小屬ハ法雨塔と額あり圓山の木像と安ん東鑑建保三年六月五日壽福寺に長老葉上僧正栄西入滅痢病小依てあり結縁と稱し鎌倉中此諸人群悉ハ遠江守（親）將軍家の御使として終焉此砌（のて）に菫むとあり又元亨釋書ハ建保三年栄西相州小あり一日源僕射實朝と辭を實朝の云く師已小老しり寺（を）成す何更しりや對て云我王城に入て滅と取んと欲ふのに駕小命とて京師に歸り微疾と示し建仁寺小於て椅小座し安祥小して逝實に七月五日あり年七十五とあり梅も小東鑑とハ異し然れども京鎌倉の諸寺昔より七月五日と示寂此日と然るハ釋書とりて正とすし又如實妙觀と書なる牌あり二位尼平政子の牌あり東鑑脱漏小嘉録元年七月十日二位家亮御し給ハ六十九是前の大將軍此後室二代將軍の母儀多し

あり東鑑小亀谷の石切ヶ谷とあり

又石切山の上下望夫石とあり

畠山六郎重保由北の濱よて戦死に其婦此山に登り望見て戀死す終
小石と化をこし重保戦死の事後重保が石塔の下に見たり按る小望
夫石とよしの異國ふも又本朝も西國邊の海岸小往々あり程伊川の
云望夫石ハ唯是江山と望んで石人の形此如くあるものあり今天下凡
江邊小石の立る者あざ皆呼んで望夫石とすすこれ有もの之此類也

又石切山の東北半腹小觀音堂蹟あり今ハ堂なく元亨釋書小宋の佛
源禪師禪興寺小住すと記夢に觀音大士告て曰逢強則止之後十
年小と建長寺より亀谷山に移る額と見れば金剛の字あり始て聖識と
明く則西南の一巖を鑿て壽塔と敷を禪陀此像と刺で指方と酬と
あれ此觀音堂なりん 又壽福寺北東向小華光院とあり真言宗
よて本尊不動尊と安ん佐女が谷稻荷別當の居所あり昔ハ壽福寺北塔

頭小て壽福寺新命入院の時ハ先此院に入て夫より壽福寺へ入院はと栄
西ハ蹟密禪なる故に始り真言宗あり今ハ別院とありぬ 又華光
院の前小上杉定政舊宅とあり今畑と成又此地と扇ヶ谷と小鎌倉九代記

小上杉修理大夫定政ハ亨徳年中より扇谷に居住せとあり此所より又此畑と
土人靈巖と稱むし寺有るに按るに定政の先祖は式部大輔顯定
永和六年四月二日死去靈巖院と號し後此人の為小靈巖院と建るは歟或
ち亨徳以前先祖より此所小居宅なり歟未詳定政ハ明應二十年十月五日

逝去五十一歳法名大通護國院範と號すは所と扇谷北上杉と小山内
の上敷と共に兩管領と稱ぶあり 又壽福寺の前小右石橋と勝ヶ橋と云
ふは鎌倉十橋の其一あり 又勝ヶ橋より南と今小路と云 又今小路勝
ヶ橋の南町西側は鍛冶正宗宅とあり今ハ回家とある正宗ハ行光の子也
行光貞應の頃鎌倉に来りてに住はと今此所は又稻荷と云小祠有正宗

祭る所あり 又正宗第北西小佛師運慶宅とあり東寶記小運慶

ハ京師東寺の大佛師也とあり湛慶康慶康辨康勝運賀運助ハ運慶
ケ子トシ東鑑トモ運慶往々見ヘリ 又今小路の南小巽荒神トシ

ナレハ壽福寺ハ巽小右故ノ名ク本壽福寺の鎮守あり今ハ淨光明寺ト泉
院の持トシ社領一貫文あり 又巽荒神北邊より南長谷迄の間ハ長谷

小路ト云あり 又巽荒神の東畠北中小人丸姫塚ト云あり人丸姫ハ悪七兵衛
景清ケ女也此女ト龜ケ谷ハ長小預トシ塚ハ此姫の墓也ト云傳トシ

辺龜ケ
谷の内あり 又人丸姫塚の南北圃トモト尊氏トモ足利トシ又巽荒神の東南北
畑トシトシ東鑑ト仁治四年正月九日足利大夫判官龜ケ谷の亭トあれハ此

ト尊氏先祖の屋敷ト見ヘリ此邊龜ケ谷ハ内あり大藏の公方屋鋪ト尊
氏代々の宅あり又長壽寺北南鄰トモ尊氏屋敷あり尊氏のトモ都ト錦

倉トシテ所あり 又壽福寺の南小沓陽山興禪寺ト云あり開山奥加松嶋

雲居禪師諱ハ希齋あり本願ハ朝倉筑後守ケ長子甚十郎あり父追善ノ為

ト建立ト山門額沓陽山ト書ハ明トモ北僧黃檗山木菴筆トシ佛殿本尊釋

迦阿難迦葉安ハ鐘樓鐘の銘あり畧之座禪石ト云山の上トあり雲居坐禪

セト所ト石切山の南隣あり 又興禪寺の西北谷ト無量寺谷ト云ハ此

此所ト無量寺ト云寺トシ趾あり泉涌寺北末寺ト云今名ノト殘ト東鑑ト

文永二年六月三日故秋田城女義景ケ十三年忌の佛事ト無量壽院ト

修ト云あり義景ハ藤九郎盛長ケ子ト居宅甘繩あり此邊まで甘繩乃
内ト云ハ此寺欽後ト無量寺ト云傳ヘル欽又鎌倉九代記ト禪秀乱の時持
氏方ト無量寺トハ上杉藏人憲長百七十騎ト向ト云ト云ハ此所あり
今鍛冶細廣ケ宅あり 又無量寺ケ谷の南小法住寺ケ谷ト云ハ昔律宗
ト寺トシ趾ありト云傳ト 又裁許橋ト云ハ佐々谷ケ流ト云ハ川ト渡
セト橋ト云あり頼朝御在世の時此辺ト政所ト裁許ト給ト故ト名ト呼ト云

是鎌倉十橋の其一あり東鑑小正治元年四月一日頼家將軍北時同注所と塚外
建つたれ頼朝御の時ハ營中ニ一所ニ就て訴論ハ人外召決せしもの同諸人群
集して鼓騷とる無礼とありつたの条頗る狼藉の基たり故に他所に於て此
儀を行ふ熊谷直實久下直光と境論對決の日直實西侍小於て鬘髪とけし
の後永く御所中此儀外停止せしれ善信が家と以て其所を今又別塚と新造
せしむとあり又同二年五月十二日念佛名の僧等外禁断し給ふ此企弼四郎仰と
奉て是代相具し政所の橋北邊に行向ひ袈裟と剥取て焼とあり又和田合戦の
時御所の西南政所前を戦とあれ此所頼朝屋敷なり西南をれば政所有
ちふら又朝夷名三郎義永足利三郎義氏と政所前の橋北邊にて相逢と有
同注所政所の跡多し然頼朝の時ニ限るべし其後此事ともり人或人の云
西行橋ともし西行鎌倉ニ来此橋に踞蹠とる故に名を此按をる東鑑に西
行鎌倉ニ来る事文治二年八月十五日頼朝鶴岡参詣の時鳥居北邊に徘徊を

る老僧あり名字と同給ひハ佐藤兵衛尉憲清法師也とあり此橋鶴岡ニ鳥居
近し西行橋ともし據るにあり又 裁許橋の南道端に創渴知とも
あり此所昔より刑罪の取て今も罪人と晒し斬戮す所地あり故に耕作と其創
渴知と名く 又 裁許橋の西南創渴知西北方の谷と 依々目が谷或ハ作 笹目谷とよ此
谷小昔寺あり長樂寺と號し法然上人の弟子隆觀房位をこりり又武藏守平
經時寛元四年同四月朔日卒依々目の山に麓小葬る後小梵宇と建つる又頼朝將軍北
御臺所とも經時の墓北傍に立ると東鑑に見へり今其の其所知る人少し 又 佐々
目が谷東南道の傍小塔辻とも二所あり七重石塔波多り甚古代の躰なりこれ等
北塔鎌倉中不多し一は建つと塔乃辻とも建長寺前圓覺寺前雪の下鐵觀音
前小町に等しもあり東鑑等の古記小塔北辻と指し皆小町に云ふり土人談云昔由井長者
染屋太郎鎌倉志ハ 本島大夫と有時忠の子三歳に成と衆細して驚し扱き行衛知れず其方より
尋ねる小骸骨切とて所々此道路に落散し所あれハもせ我子の骸ありと著

提の爲り骨れ落ちり所々石塔と建し之は是所云塔の過るん秋山の
由縁大山寺の下小委く兵せり予此塔と按生る正慶建武の北條高時亡
一時多くの戦死れ者と葬りて北條家建立の寺僧を其所建しと見たり
又按る詞林采葉抄大職冠の玄孫淡屋太郎太夫時忠南都良辨北父也
文武天皇御宇より聖武天皇の御宇に至りて鎌倉小居住り東八國の總追
補使と成て東夷を鎮めたり是るん秋然れども未詳良辨の父といふ
とも元亨釋書も載り釋書小良辨ハ近州志賀の里人或ハ相州の人とも
いふあり又鷲小つらり事もあるば相似るるや 又塔の过れ道より

南畑の端小芝野六七尺四方取残りて有所と盛久が頸座といふ長門本平家物語
卷廿小主馬入道盛國が末子主馬八郎左衛門盛久京都に隱居るるが年来の
宿願して等身れ千手観音と造立して清水寺に本尊の右脇に奉置り日叅
詣り右兵衛佐殿北條四郎時政に仰られ盛久京都に隱居るるに聞けり北

條京中と尋求れども更小尋得り或時下女来て誠や盛久ハ清水寺に夜毎詣
てたもとそ中北條悦て清水寺に邊小人と置窺ひ見せ盛久と召挿て右兵衛
佐殿奉る盛久を鎌倉小下着り提原景時仰り養て心中の取願と尋り子
細と述べ盛久ハ平家重代相傳の家人重恩厚徳れ者也早く斬刑小隨ふとて土屋
三郎宗遠に仰て首と剣らえりて文治二年六月廿八日盛久と由比の濱に刃す盛
久西に向て念佛十遍し中々をいふ思はん南に向て又念佛二十遍し中ける代
宗遠太刀と拔頸を討其太口中より折折奴又太刀も目貫より折りて不思議の思
いと多し富士れを登り光り二筋盛久が身小當りたれと見へる宗遠使者と立
此由と右兵衛佐殿小申し又右兵衛佐殿の北の方北夢に老僧一人来て盛久斬首乃
罪小當られ候て宥免候へし中北の方誰人小御座るる僧中を我ハ清水邊
に候僧多しと中いと夢覺て右兵衛佐殿に此由申され此に依り盛久と召返されり
右兵衛佐殿所帯ハ多くと同給ハ紀伊國小候りるも君の御領に罷成て候り

安堵の御下文と給ふとあり又東鑑小大夫尉伊勢守平盛國入道去辛召下され
文治二年七月廿五日断食して死は是下総守季衡が七男平家の氏族也とあり此
盛國ハ盛久が父はあは盛久が父ハ盛國が為ハ叔父あり盛久父子の事ハ東
鑑小見ハ

又佐々目ヶ谷の西路北茂林ハ甘繩明神と云あり天照太神と祭も又
八幡太郎義家の像あり神主小池氏多し東鑑ハ文治二年正月二日二品頼朝御臺所
甘繩神明宮ハ御祭とあり又甘繩神明奉幣の事往々見へり里談訛てたふふこと云
又玉繩と云所ハ山内の庄北内あり按をふ東鑑小甘繩となふこと假名と付たり
鎌倉九代記小玉繩の城と甘繩と書て假名ハ多ふこと付たり東鑑ハ字正しく
して假名あやざり九代記ハ假名正しくして字あやまる讀ん人心と付し又關東兵
乱記小玉繩の城あり皆山内庄の内ハ有城指ハ多し又此地より西の方ハ長谷村也
東北の山ハ隨て無量寺ヶ谷まで甘繩の内多し 又甘繩明神の前東の方と
藤九郎盛長屋敷と云東鑑小治承四年十二月廿日武衛御行始として藤九郎盛長

ヶ甘繩の家ハ入御し繪とあり其後往々見へり 又佐々目ヶ谷の入口東南ハ昔薬師

堂有と土人云つふ今其所ハ分明多し按をふ東鑑ハ正嘉二年正月十七日秋田城ハ泰
盛ヶ甘繩北宅より火出て南風頻り吹て薬師堂の後乃山と越へて壽福寺等焼失
ハとあり泰盛ハ盛長が孫多し盛長屋敷甘繩明神の東ハこれハ薬師堂其北ハ當
り又鎌倉大草子ハ禪秀乱の時持氏ハ憲基ハ亭ハ取籠られハ薬師堂表ハ
結城彈正少弼二百餘騎して向ふとあり此堂持氏の收まて有つ系歟 又長谷小路ヨリ

佐々目ヶ谷ハ入右の山乃出寄ハ天狗堂と云り昔愛宕祠ありしなり太平記ハ天狗堂ハ扇谷
て小軍りしと書ハ此所なり 又天狗堂の東ハ千葉常胤屋敷あり今田圃之成
東鑑ハ阿静房安念司馬の甘繩の家ハ向ふと云ハ是多し司馬ハ千葉成胤と云也
成胤ハ常胤が嫡孫して胤正が子あり 又千葉屋鋪の東南北畑と誼訪屋敷と云
昔誼訪氏の宅ありと云あり 又天狗堂より西の方ハ谷と七観音ヶ谷と云むし
此所ハ觀音堂有と云按をふ東鑑ハ元久元年十二月十八日尼御臺所の御願として

七觀音像と圖繪せらるるあり或ハ此像安置の堂はつるに後又建長二年三月十八日

相州北條室家の御願として七觀音堂前にて讀經と修せらるるなりの所歟

又佐々谷の内小國清寺趾ともあり寺内とも所あり鎌倉大草子并上杉禪秀記

小上杉憲顯の建立也とあり今按するに杖乘禪林諸祖傳小松嶺秀和尚の傳に

上杉大全居士長基豆州の國清寺を遷して湘江乃佐々谷てけん鼎建けんとあり大全

居士ハ安房守憲定より長基ハ其法名也憲定ハ明月院道合憲方が子にて憲基

が父也憲顯が為るハ孫なり空華集小豆州の國清寺ハむじ律院にて高雄の文

覺上人ハ舊宅あり上杉憲顯律あつとと革あつとて禪と一佛國禪師の弟子無礙謙

公と岡山祖とあり鎌倉九代記ハ憲顯と伊豆の國清寺小基ハ法名國清寺殿桂山

道昌とも然る時々伊豆ハ國清寺と此所と遷したると大草子禪秀記等ハ憲顯が

建立と書しりしが又滿隆禪秀が亂の時持良ハ憲基ハ亭に居せりと岩松治

部大夫淡川左馬次が千の兵國清寺に火と懸るとば餘煙佐々谷の亭に燃懸りと

あり其後ハ絶たず本尊ハ今伊豆の國清寺に有こしと又佐々谷の内小御所の入

ことあり古老ハ云平經時の住せし所とも按するに光明寺記主の傳ハ平經時佐

々谷に隱居し專修念佛して卒とりと經時ハ墓佐々谷の山に麓にありとの所

より遠くとあり又佐々谷とハ入口の方東南に向つて境地廣くと其分内

小谷々多しといふに佐々谷遠江守住居せりとり此名ありと一説ハ上総に千葉にあり

浦の二にあり此地に住居し故に二にあり谷といふとり東鑑ハ寛元四年六月廿七日入道

大納言家頼越後守時盛が佐々谷の第に渡御し給ふとり又同五年正月晦日越後

の入道勝圓が佐々谷に亭を後山に光り物飛行とあり又建長二年六月廿四日佐々谷

居住する者俄に自害し聞きの競ひ集り見る此人の督あり日來同宅に其塔田舎

下る其障と伺ひ艶言と息女に通ふ息女らはて許容せば櫛と投て取る者ハ骨肉

も皆他人に變るのよしと稱し彼父息女の居所に至り屏風に上り櫛と投入

かの息女意は是と取ら依て父既に他人にあると志しと遂んとり時に塔



稻荷祠あり山林茂りたる地多し扇谷華光院持也毎年初午には鎌倉中の男女群
 悉く靈驗有て常にも詣人多し雪の下等覺院小尊氏の證文一通あり其文
 小山徒對治祈禱の事殊不可被致精誠之狀如件延文四年十二月十日佐々木
 稻荷社別當三位僧都御房とあり尊氏の判あり 又佐々木橋の近所小
 隱の里といふありこれハ大巖窟と云ふなり 又隱の窟北中小錢洗水といふなり
 福神といふ來て錢と洗ふ音をとりて形を鎌倉五水此其一なり

水無能瀬川より光則寺深澤里大佛御輿嶽大佛切通常盤里迄
 又長谷村長谷觀音御靈宮星月夜の井飯の下極樂寺切通
 極樂寺月影谷稻村稻村ヶ寄靈山ヶ寄針磨橋までと記

偕又甘繩と長谷の圓小水無能瀬川といふあり土人稻瀬川といふ此川大佛の方御輿ヶ

嶽より長谷の前と流れて海に入あり東鑑小治養四年十月十日御基所平政伊豆
國阿岐戸郷より鎌倉に御入の翌日次宜く依て稻瀬河の邊民屋に止宿し
給ふ又元暦元年八月八日三河守範頼平家追討使として進發の時扈從北輩一千餘
騎頼朝御稻瀬河の邊小枝敷と構へ見物し給ふなり又梅松論小義貞鎌倉合
戦の時大館宗氏稻瀬河に於て討取ると有む所の事なり

五葉 真名をみまひはやくかまへり水無能流川に潮うつる

校本集 東海やあふの勢川より舟のちよも足ぬみ月を乃古河 野宮左大臣

家集 潮をもあやせしむらぬらん水無能勢川にあらふ浪は 藤原為相

此外古哥多たれどもかくに累は是等北哥皆あつ川と詠り又山城大和撰津小水無瀬川
と宿屋とも北條平時頼家臣宿屋左衛門光則入道西信が居宅の古趾なり故小
地名と宿屋町とよ昔日蓮上人龍の口して首の座ふ及ぶ時才子日朗日心二人檀那四

條金吾父子四人安國寺して召捕て光則は預り給ひ土の籠小入る日蓮上人不思議
此奇瑞有て害と免る依て光則もこれより信と起し宅地在日朗に寄附し中
菴と結び日朗と閑山といふ故小光則が父行時の名と山號として行時山といふ我名
残寺號として光則寺といふ近年古田兵部少輔重恒が後室大梅院再興に故小
今大梅寺とも云あり堂内小日蓮上人日朗光則四條金吾父子等の像と安ん
日朗上人土牢當寺北北の山上あり 又初瀬村深澤里といふ大佛あり大威
山或は作清淨泉寺といふ浄土宗あり光明寺末派古八建長寺の持あり寺内
金銅盧遮那佛坐像と安んこれ大佛也堂宇あり又雨露覆もり長二丈
五尺膝通りして横五回半袖口より指の末まで二尺七寸餘腹内は六觀音阿彌陀の
三尊佛安ん忝詣の人腹内小入窟れ如し寺僧の云初ハ聖武亭乃建立はし
て當國小て國令寺の旧蹟也大佛殿北古礎都て六十餘石ありしれも且り一回斗を
東鑑小曆仁元年二月廿二日相模國深澤里大佛殿の事始也僧淨光尊舟緇素と

勸請して此營作を企同五月十八日大佛の御頭舉奉る周八丈方り仁治二年三月廿七日深沢の大佛殿上棟此儀あり寛元元年六月十六日深澤村小一宇の精舎地建立一八丈餘れ阿弥陀の像と安ん今日供養と述導師ハ卿の僧正良信讚衆十人勸進北聖人淨光坊此六年按ももに曆仁元より寛元元まで合せて六年也の間都鄙と勸進ハ昇尊等奉加せんこと事多し是皆頼經將軍の時也又建長四年八月十七日深澤の里小金銅より釋迦如來像と鑄奉ふとあり宗尊親王の時より源親行が東園紀行小由比の浦に阿弥陀ハ大佛と作り奉る事れ起りを尋ねるに本ハ遠江國人淨光上人と云者あり過り延應の頃小園東北尊昇と勸めて佛像と作るハ阿弥陀ハ八丈北長の本像也とあり按も小曆仁元年に淨光造作の佛も八丈乃阿弥陀仏とあり延應ハ曆仁の次ハ年号也謂所六年の内るれハ東鑑小符合せり其佛ハ此の時歟滅亡して今の大佛ハ金銅ハ盧遮那佛也東鑑云建長四年に鑄る佛歟鎌倉大日記小應安二年九月二日大風鎌倉の大佛殿顛倒を又明曆四年八月十五日洪水

由比濱海水激揚一ハ大佛の堂破ると云又建長寺の過去帳小大佛北開山大素和尙諱ハ素一とあり此ハ中興多し歟詳るる又云西行上人ハ鎌倉將軍

家小於て二日ニ夜軍法と脱さるる其息謝小銀の猫ハ香爐と賜ふ上人これと推し出れ無心境思小益かして大佛の門前の童子とて尋てかくれを阿房の賦あが小門かどハ鑄の如く珠たまを石の如く金こ塊かたまりの如く銀ぎん礫がらハ如くと書れり同日此論ありと其頃より人皆西上人の徳賞しとて我國一又大佛の東

北山と御輿嶽或ハ作見越と云萬葉 かのうののみいりが寄ハ岩ぶえの君がくえぎんをももり

名寄 鎌倉紙 都より吹ぬる湯々やみこが湯乃秋の初風 左京大夫顯仲イ作朝仲 中務卿 宗尊親王

又大佛の西北方小大佛切通と云あり此ハ常盤の里ハ出る路あり東鑑云治承五年九月十六日足利太郎藤原の俊綱が郎等相生六郎主乃俊綱が首と持参して

梶原平三が許し案内と申然るに鎌倉中へ入るを直に武藏大路より深澤を経て
腰越小向とありあれは深澤を経て行く道筋なり候 此所より鶴屋一の
鳥居まで二十町許りあり

又大佛の切通と越れば常盤乃里と申東鑑小建
長八年八月廿三日將軍家新奥州政村が常盤第へ入御し給ふとあり又弘長三
年二月八日政村が常盤の御亭にて一日千首の和哥れ會の事あり今此内より常
盤の御所と云傳ふる所より政村が亭れ趾也と土民より政村と常盤院定宗
或ハ作 定宗と號し昔此所より常盤院と建ふる候

新後撰

うづみ河へてより代白く山櫻花もて地その宿乃るまじし 藤原景綱

此歌と昌琢類字名所より山城の常盤へ入る契沖が吐懐偏よりこれと考(残)
侍多しの哥れ詞書より平時範が常盤の山庄にて寄花祝と申事と讀侍々事
とあり時範ハ北條重時が孫より陸奥守時茂が子なり景綱ハ重時が兄恭時
が家士なり梅もるん時茂とも常盤と號し政村が姪なり時茂より時範に至る

まで此所より山庄有つらん然れば此歌鎌倉の常盤と詠るらん又此所より常盤の
松と申あり 又長谷村或ハ長谷小路と申此所右の山側より長谷の觀音と申あり

海光山長谷寺より浄土宗より光明寺末派なり本尊十一面觀音と安ん長ヶ二丈六尺
二分春日の作坂東巡礼札所第四番也よ観音ハ和品長谷の觀音と一本れ捕小
て和品ハ木の本此像ハ木の末より此作人春日より佛師ハ名あり又佛像のよらる
樂の假面より春日が作數多あり舊記小替文會替主勳ハ河内國春日郡の村人

兄弟共小佛師ありとあり是と春日が作と申形より浮屠附會の説より春日大明神の作と
云て世人と迷はせし信すべからば又相傳ふて此觀音大和の長谷より洪水小流され馬入
一流れありと申上て飯山より有りと忍性と大江廣元と謀て此所より移せ按もるん忍性の傳
小建保五年より生る十六歳より出家すとあり廣元ハ嘉禄元年より卒候時小忍性漸九歳

あり且親書小弘長れ始め相陽より入とあれむ此事不審なり本堂の額長谷寺と書
子純筆とあり堂内小如意輪像安阿弥作勢至像同作此像ハ島山重忠が持佛堂

の本尊と云聖徳太子像并和品長谷岡山徳道上人像自作等と安ん毎午六月十
七日當寺に法會して遠近の貴賤に群悉く寺領二貫文私云和品長谷寺觀音
像に事徳道を傳え亨親書小出川徳道ハ乃法道仙人なり 鐘樓鐘の銘あり畧之
慈照院門と入右の方小なり 慈眼院門と入左の方あり

又長谷村より西南に御靈
の宮と云あり祭る所鎌倉權五郎平景政の靈祠と云神主小坂氏景政が家臣の
末より保元物語に云後三年の合戦小鳥海北城と落され一時生年十六歳より
左の眼と射られ其矢と抜くして吞れ矢を射て敵伐殺一名と後代に傳
へ神と祝せ侍る又景政が事奥羽軍記に詳あり又東鑑小建久五年正月
御靈社(奉幣八田知家御使たり其外御靈の社に事往く見へ多)梶原村に
も御靈の宮あり里談云當社ハ本梶原村に在り云と後此地にも勸請す故
に今祭礼の時ハ彼所の神主出合て勤ると云又撰品大坂に御靈社あり云れ
に此景政の靈也祭る也と云

又極樂寺切通へ上る坂下右の方小星月夜の

井と云あり此邊坂の下と云あり里談云昔ハ此井の中小昼も星の影見也
ゆ故名と云一年此辺に土民ハの井水と汲り来り過て茶刀と井の中へ落れ去り
星に影顯れすと云ん又此井の西小星月山星井寺とて本尊虚空藏菩薩氏
安ん行基作長々二尺五寸極樂寺村成就院の持あり傳ふ云聖武帝の御宇天
平年中小川の井中へ虚空藏に影見あるよしと奏聞し之れハ行基小勅有て云
に來り此影を見て本尊と作りし是より安置し之れと云ん按するは鎌倉山乃
星月夜と云頼朝卿初て征夷將軍小任し四方の諸侯悉く綺羅星の如く威儀
輝くを云と云あり

源川百首 家なきる 徳倉山と云(此ハ星月夜と云)うれいかなれ 常陸

北國紀行に極樂寺へ至るほどいとくは山岡に星月夜と云所ありむじの
道小星の所堂とて作り置るも古き僧の中傳へり云ハ

今も多岐星月夜と云そのころは光寺なるが谷北岡の灯 法印堯惠

又星の御堂と云ハ此虚空藏堂の事也ト今按古に以谷北名と星月夜
と云あがち井の名ヲ述バ千壽ハ淫ヲ明クヤ云人星月夜と云古哥ハ
井ハ泳セバ寺寶明星石一顆黒くあめりなる石不て常より多付ひあり馬の
五一顆貝の珠一顆古錢二文一文ハ宗寧通寶一文ハ元豊通寶唐鑑一面已上
又由比の濱れ方々稻村ヶ寄七里濱行道と極樂寺切通ト昔忍性菩薩切通ハ
トト上太平記ハ新田義貞の大將大館次郎宗氏十萬餘騎ト極樂寺ハ切通より向
トあるハ此所より南の方ハ稻村ヶ崎ナリ

又極樂寺切通ハ靈山極樂寺トト眞
言律宗ト南都西大寺の末派ナリ當山開基ハ忍性菩薩又良觀上人ト號ハ
父ハ伴貞行母ハ榎木氏也和西城下郡屏風村ト建保五年七月十六日誕ト十
六歳の時母公逝ト々レハ菩提代訪人ト為ト和品額安寺ト於テ剃髮東大寺
にて登壇受戒ト々レハ諸山トめぐリ苦修練行ト事都テ五十餘年七
十二歳ト及んで洛ト登壇詔ト奉テ忍性菩薩ト號ト七十八歳の辰永仁二年撰

品四天王寺石華表と建高さ二丈五尺ナリ嘉元元年戒と擬ハ元亨釋書ト傳有
當寺本願ハ陸奥守平重時ナリ重時代極樂寺ト號シ法名觀覺トト東鑑
小弘長元年十一月二日平重時卒ハ年六十四極樂寺の別業ト住ハ此の極樂寺
ト嘗テ發病の始ナリ万事ト抛テ一心ト称念念佛トテ終ルトあり按云元亨釈
書ト初め正嘉申小沙門有リ一字ト嘗テ丈六の弥陀ハ像ト安ハ名テ極樂寺
トト平重時其宇代今の地ト移トテ齋場トシ重時の子長時同弟業時力ト合
テ修營トあり帝王編年記ト永仁六年四月十日關東ハ將軍家久明親王御祈
禱の爲ト十二箇寺の寺領乃違乱ト停止殺生禁断の事あり相州鎌倉郡
北極樂寺其一ツ也此寺昔ハ四十九院ありト形リ今吉祥院トトあり寺
領九貫五百文ナリ又千服茶磨トテ大なる石磨門ト入右の方ナリ昔ハの寺
繁昌ありト知リめん為ト云トト本堂本尊釋迦佛興聖菩薩の作京
師嵯峨ハ釈迦代摸ハトト左右ト十大才子ト興聖菩薩の木像右ト忍性

菩薩の像又文殊菩薩北座像と安ん古の文殊堂の本尊也と云沙石集小慈
濟律師此寺小住せし時或夜の夢に文殊告て曰く連歌しつゝいふか
りしもの外慈濟律師附する思ひ立心の外道を非しとあり慈濟律師
北夢不見し此像ありと云傳小文殊堂の趾礎石今尚存し寺寶九條袈裟一
頂乾陀穀子の袈裟東寺第三傳と書付り今按する小乾陀穀子北袈
裟弘法大師乃傳來して八祖相承して東寺の寶物あり今此寺小有所を其
袈裟と摸りたる牙三傳と見ゆ繡心經の卓圓一張當麻北中將姫の袈裟と云
廣さ一尺二寸四方卓圓ハ俗よし打敷あり二十五條袈裟一頂紗也ハ幡大神の
所持と云按するハ幡調進の物あり瑜伽論三卷菅原相の筆其説在柄天神
の條下小詳あり論旨二通共嘉曆二年とあり右馬允政季證文一通 尊氏證
文義詮證文義滿證文氏滿證文一通宛 千體地藏弘法の作本尊ハ一寸餘
千軀ハ長五六分許り也今皆紛失して終々に二三百許り残り 用山忍性菩薩跡

外賜る勅書の寫し一通 忍性菩薩行狀北畧頌一冊 已上 鐘樓 辨慶腰掛松
門と入北の方あり俗傳云源義經兄頼朝卿ハ數通の起請文と書たしむる
く託申されども終者の為小腰越り押返されし辨慶の松上腰
とかけて鎌倉北方白眼と云 又極樂寺切通西の方小月陰谷と云有
又鎌倉志ハ極樂寺の地内西北方也とあり昔ははて曆と作る者住し弟
と我 又月影谷小阿佛尼第蹟あり又墳墓ハ扇谷英勝寺境内に有
しと阿佛印塔屋鋪と云り阿佛尼ハ藤原為相卿の母公あり
十六夜記 東より住すしハ月影谷と云ふある浦邊山と云て風いし
り山寺の傍にありのころよとて流乃吉松尾と云
又極樂寺の西南小聖福寺舊趾と云あり大なる谷あり此地ハ熊野權現社あり
東鑑小建長六年四月十八日聖福寺の鎮守諸神の神殿北上棟所謂神驗武
内稻荷住吉鹿嶋諏訪伊豆箱根三島富士夷社等あり是總して關東の

長久別して相州時頼の西男聖壽丸 福壽丸息災延命の為り依て彼兄弟西人の

名北字以て寺號とて去る十二日事始あり相模國大庭御厨の内子其地

とトかくとあり又鶴岡記録ハ幡の御正體と新熊野聖福寺小移し奉る

とあり 又極樂寺北南と稲村と上海道の東北方稲と積まきとく

北山より故小稲村と名くむる源満兼の舎弟満直此村小住り故小稲村殿

とよ又里見義豊をも稲村殿と稱べられハ房品の稲村ありとよ 又稲村

の南海濱と稲村が寄とよ七里濱の東あり東鑑云建久二年九月廿一日頼

朝御海濱遊覽し給へる小稲村が寄小出御小笠懸の勝負ありてぞ

その渚と横手原なまきとよ太平記曰新田義貞廿一日の夜半此所あけゆくお落り明行

月小敵の陣と見給ハ北ハ切通極樂寺 切通也まて山高く路險木戸と構垣むらと捨て數万

北兵陣ちゆうぶ雙て並居り南ハ稲村が寄まて沙頭路狭浪打なまき涯なまきまで逆茂木と繁

く引懸て澳四五町が程小大船なまきと雙て櫓なまきをかけて横矢射させんと構へ

たり實も此陣の寄手叶なまきで引ねんも理なまき多て見給ハ義貞馬より下給て

甲と脱て海上と遙くと伏拜し龍神小向て祈誓なまきのひまを傳なまき美日本國

此御主伊勢天照太神ハ本地と大日の尊像小隠なまき一垂跡なまき海の龍神小顯

給へり吾君其苗裔として逆臣の為小四海なまき浪なまき漂なまきひり義貞今臣と道と

さん為小斧なまき鉞なまきと把て敵陣に臨む其志偏小王化なまき資なまきけ奉て蒼生と安ん

じとめんとあり仰願ハ内海外海の龍神八部臣が忠義と鑿なまきて潮水なまき萬里

の外に退け道と三軍北陣なまき不用なまき先給へと至信なまき小祈念なまきしるなまき佩なまきたる金作

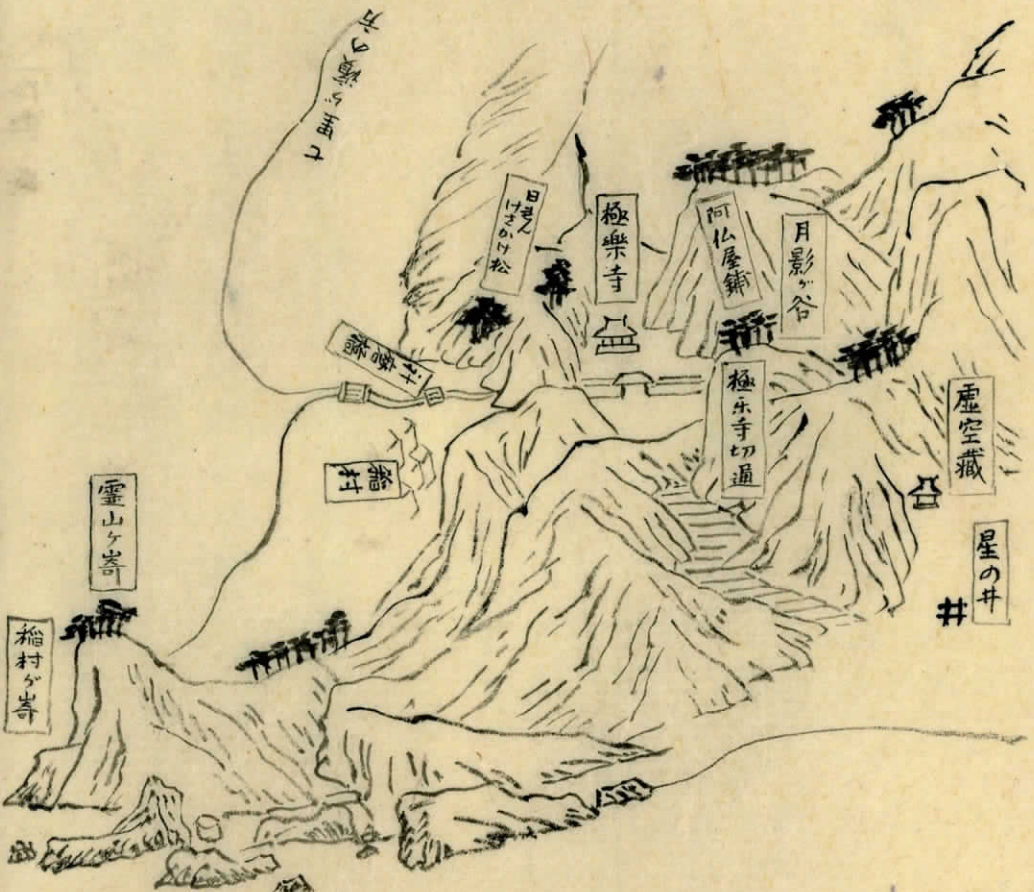
乃太刀と拔て海中投入給ひて真小龍神納受なまきヤなまき給ひる其夜の月北入

方なまき前々より更小千事なまきもかろる稲村が寄俄小二十餘町于上て平沙なまき渺

々たり横矢射んとて構なまきぬる數千北兵船も落行なまき以なまき誘なまきつれて遙の澳なまき漂

りとあるは此所あり 又稲村の東南の出崎と靈山が寄なまきこなまき昔ハ極樂

寺の境内より極樂寺と靈山と號と故小なまき崎とも名くとあり又此所なまき佛法



寺にて忍性住せし寺ありとあり忍性御教書と承て雨と祈りし
大の所なり日蓮も此所にて雨と祈り法華に經文抄板小書て流る今
小其板往く藏^く以者ありと云 又船村の東小針磨橋と云あり極
樂寺の南七里濱(出入道北小橋あり錦倉十橋の其一橋なり

倭國一覽路の記卷四終

